

学校自慢

原点回帰

木更津市立清川中学校校長 ながしま 長島 たづこ 田鶴子



1 はじめに

本校は、全校生徒326名、特別支援学級を含む学級数12の中規模校である。木更津市の市街地にあり、学区は農村地帯と新興住宅地が混在している。明るく素直で人懐こい生徒が多く、穏やかに学校生活を送っている。目標高く物事に取り組む生徒が私の自慢の一つ目である。しかし、一方で結果になかなか満足ができず、自分に自信が持てないという面も持ち合わせている。自信を持って楽しく実り多い人生を送ってほしいという願いから、「自己肯定感が高く、未来を切り拓く生徒の育成」という学校教育目標を定めた。

2 大切にしていること

(1)合意形成

今年度は、非常勤を含め30名の教職員中、12名が新しく異動してきた。それぞれの背景が異なり「今までどおり」が成り立たなくなった。そこで、分からないこと、思ったこと、懸念などを積極的に言葉にしていこうと呼びかけた。だが、習慣の違いから、何を聞くべきかすら、わからないこともあった。しかし、互いが言葉を交わしていくうちに、説明する側もポイントを掴むことができるようになり、意思疎通がスムーズになってきた。今では教職員同士で合意形成をした上でチームとして教育活動を行っていると感じている。

(2)理解と創造

職員会議では、提案者が今までの活動案をどう理解し、結果として今年度どうしていきたいか、それはなぜなのかという、創造につながる一連の過程を重視している。昨年と同

じ内容か、違うかは問わない。その結果として、どのようにしたら自己肯定感が高くなるのか、未来を切り拓く力がつくのか、全員が常にこの二つを考えながら教育活動を行うようになってきたと感じている。

(3)教育活動を仕組むこと

自己肯定感を高めるために自治活動を多く取り入れている。自治活動は生徒が自由に活動することではない。教職員の教育的意図のもとで生徒は活動を行っているのである。

生徒の活動の場面では、教職員はできるだけ前に立たない、指示をしない、と心がけている。事前に生徒と話し合いながら、意図した方向へ誘導する。必要なリハーサルも生徒発案という形で十分に行い、成功させるように導く。生徒に「すべて自分達の力だけで成功した」と錯覚させるように仕組むことが、教育の技術であり醍醐味だと考えている。教科学習も含め、教育活動を丁寧に仕組んでいこうと、教職員一同努力している。

3 おわりに

本校の教育活動で大切にしている三つは、教育の基礎的・基本的なことであり、原点だと思う。取り立てて派手さのない地味な活動が本校の中心をなしている。しかし、弛まず基礎的・基本的な活動に取り組むことが、生徒を伸ばし、教職員の資質向上にもつながると信じている。これらの活動に献身的に取り組む、創造性を発揮する教職員は私の二つ目の自慢である。本校の教職員と、本校の活動を概観する機会を与えてくださった千葉教育編集部に感謝申し上げ、終筆とする。